

世界のこども日本語ネットワーク推進事業

第3回 海外教師日本研修プログラム

応募受付開始

財団法人 博報児童教育振興会（理事長 近藤道生）は、1970年に児童教育を振興する目的で文部省（当時）認可の財団法人として設立されました。以来、児童・生徒の教育において優れた実績を上げられた個人・団体を顕彰する「博報賞」をはじめ、時代の変遷に併せて多角的な支援を行うべく、事業を拡充・発展させて参りました。

そして、2007年度より4つのプログラムで構成する「世界のこども日本語ネットワーク推進事業」（※1）を開始いたしました。

この事業は、国際化が進む昨今において、日本の児童・生徒が日本のことばと文化の的確な理解に根ざして、さらに健全な国際人へ成長することを支援するため、国内外の児童・生徒の日本語を通じた異文化体験や国際交流を核としております。

本年度も、この事業の最初のプログラムである「海外教師日本研修プログラム（海外日本語授業環境整備助成）」（※2）の第3回実施に向けて、本日より応募受付を開始いたします。

■ 主な応募資格・条件

- 海外において、12歳～15歳（日本の中学生に相当する年齢）を対象に日本語を指導していること
*ただし、児童・生徒の年齢は国ごとの学制を勘案し、この前後の年齢も対象として検討します
- 中等教育の教員資格またはそれに準ずると認められる資格を有しており、それを証明できること
- 日本語能力試験3級以上を取得、もしくは同等の能力を有すること
- 日本以外の国籍であること

■ 助成内容（予定）

- 渡航費、宿泊費、食費、日本滞在中の活動費など

■ スケジュール（予定）

- 募集期間：2009年5月11日～6月12日
- 結果通知：2009年8月上旬
- 実施期間：2009年10月25日～11月11日（予定）

応募方法など詳細は、世界のこども日本語ネットワーク推進事業「第3回 海外教師日本研修プログラム 応募要項」をご覧ください。

<この件に関するお問合せ>

〒107-0052 港区赤坂2-11-7 ATT新館8階

財団法人 博報児童教育振興会

世界こども日本語ネットワーク推進事業担当

TEL 03(5570)5008

FAX 03(5570)5016

Eメール hakuho.foundation@hakuhodo.co.jp

ホームページ <http://www.hakuhodo.co.jp/foundation/>

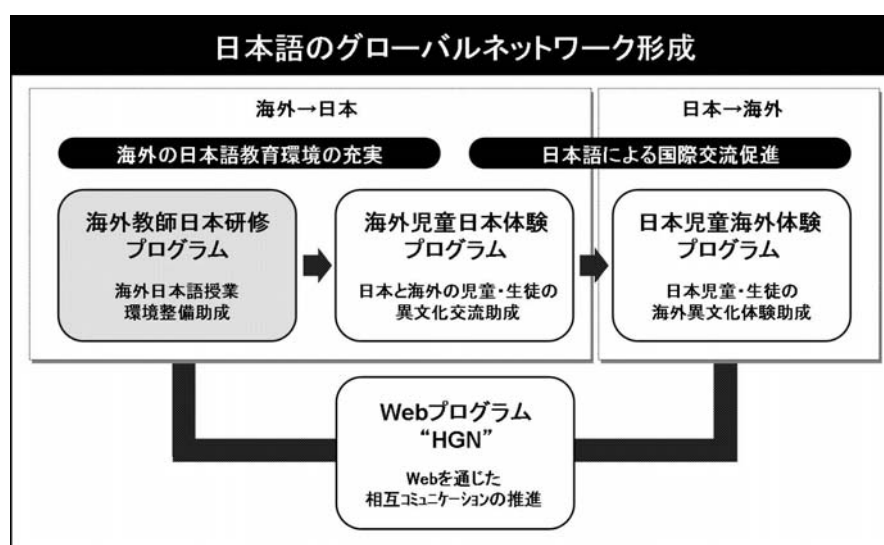
※1. 世界の子ども日本語ネットワーク推進事業について

◆ 事業目的

- ・ 国内外の児童・生徒が、日本語による国際交流を行うことを通じて、日本のことばと文化を理解・再認識し、健全な国際人として成長することに寄与する。
- ・ 海外の学校教育における日本語授業の活性化や授業環境の向上を図り、日本のことばと文化への理解・関心を促進する。
- ・ 中長期にわたって事業を継続・展開することで、日本語教育のグローバルネットワークを構築する。

◆ 事業構造

本事業は、日本の児童・生徒と海外で日本語を学ぶ児童・生徒との交流を、一定のサイクルで実施し、それに先立ち、海外の日本語授業環境整備のための助成活動、およびウェブサイトの活用と4つのプログラムで展開する構造となっています。



① 海外教師日本研修プログラム（海外日本語授業環境整備助成）

海外の初・中等教育機関（日本の小・中学校に相当）の日本語教師（日本人を除く）を日本に招待し、研修会の実施など授業環境整備に向けた支援を行う。

② 海外児童日本体験プログラム（日本と海外の児童・生徒との異文化交流助成）

海外の初・中等教育機関（日本の小・中学校に相当）で日本語を学ぶ児童・生徒を日本に招待し、日本の古今の文化や技術、および社会体験や学校訪問などの交流を通じ、日本語・日本文化への理解と関心の向上を図る。

③ 日本児童海外体験プログラム（日本児童・生徒の海外異文化体験助成）

日本の児童・生徒の海外体験を支援することで、同世代の海外の児童・生徒との日本語を通じた交流と、異文化体験による日本語・日本文化の再認識、および国際人としての自覚醸成を促進する。

④ “HGN” Webプログラム（Webを通じた相互コミュニケーションの推進）

海外で日本語を教える教師や日本語を学ぶ児童・生徒に向けたコミュニティサイト。実際に行った交流・体験プログラムの内容紹介、日本語教育や日本文化などについての情報提供、また交流の場としての役割を担う目的で運営する。

このような展開構造によって、本事業は、日本語のグローバルネットワークの形成を推進していきます。

※2. 海外教師日本研修プログラムについて

この「海外教師日本研修プログラム」は、この後に予定している「海外児童日本体験プログラム」および「日本児童海外体験プログラム」へとつながる最初の活動として行うものです。

◆ 目的

- ①日本語指導法の新しい視点やスキルの獲得
- ②授業で活用できる教材の収集（既存の教材＋独自の“生教材”）
 - * 生教材とは…日本の文化・社会を教えるために、一般に教材として販売されている物ではなく、パンフレットや商品パッケージ、日用品など身近な物を工夫して使う物。
- ③日本の文化・伝統・社会の体験による日本理解の促進
- ④世界各国の日本語教師による情報共有

◆ 来日後の体験・研修概要（予定）

- 日本語・日本語教授法研修
- 日本の伝統文化・生活を知る体験学習
- 日本の中学校訪問と中学生との交流
- 生教材活用のための相談会
- 各国の参加者と専門家を交えた、意見交換と成果の共有会 ほか